

2019年4月1日より耳鼻咽喉科、
消化器外科がわり、入院中の
全身管理を充実してまいります

17診療科

整形外科 形成外科・小児形成外科 救急
科 外科 リウマチ科 皮膚科 脳神経内科・
リハビリテーション科 脳神経外科 内科
循環器内科 血管外科 麻酔科 放射線科
耳鼻咽喉科 消化器外科

救急科専門医指定施設の
認定を受けました

本年1月より、日本救急医学会の「救急科専門医指定施設」に認定されました。より一層、地域救急医療の質を高めるとともに、救急医療の普及、教育に精進したいと思います。

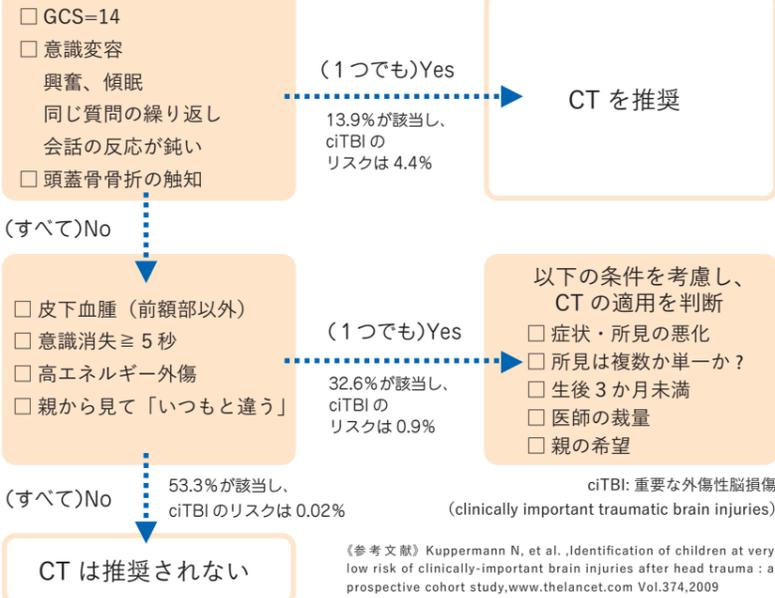


救急センターの取り組み

小児の軽度頭部外傷にCTの適用は？

2歳未満の頭部外傷にCT検査を行うべきか判断が難しいところです。「小児の軽度頭部外傷に対するCT適用のアルゴリズム」では、図の左7項目がクリアできていれば、重篤な脳損傷であるリスクは0.02%と示されています。

小児の軽度頭部外傷に対するCT適用のアルゴリズム



Hospital Letter **KINOH**
TO 熊本機能病院 広報誌
キノウトアシタ
vol.14
2019 MAY **ASHITA**

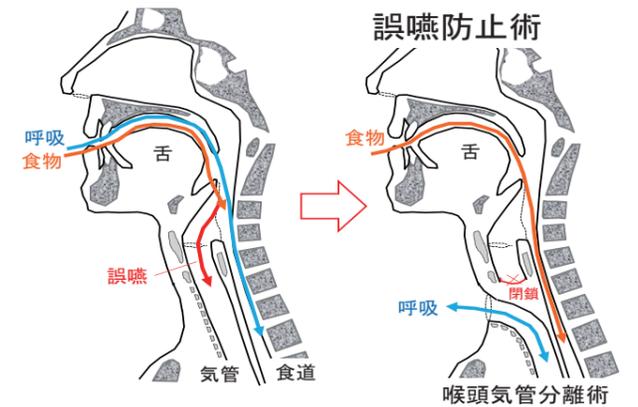


耳鼻咽喉科の紹介
嚥下障害の治療について

嚥下障害に対して行われる手術は、栄養管理目的の「胃瘻作成術」や気道管理目的の「気管切開術」が一般的ですが、この他に、「嚥下機能改善手術」と「誤嚥防止術」があります。嚥下障害に対する治療はリハビリテーションが基本になりますが、リハビリテーションでも改善できない場合、手術によって改善する例があります。患者さんの状態や希望などを十分考慮して決定する必要があります。

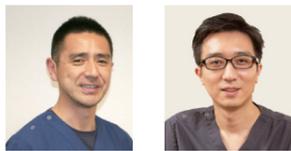
当院では、これらの治療を行っておりますので、受診を希望される場合は、お気軽にご連絡ください。

③喉頭気管分離術（誤嚥防止術）の仕組み



治療目的	手術	適応患者
嚥下機能改善手術	①輪状咽頭筋切断術 ②喉頭挙上術	● 嚥下を改善させる手術
誤嚥防止術	③喉頭気管分離術	● 呼吸の通路と食事の通路を完全に分離することで、誤嚥を完全に止める手術 ● 経口摂取ができる人もいるが、永久的に気管切開からの呼吸となり声を失う
		誤嚥しても自分で咯出でき、肺炎をあまり起こさない人
		誤嚥しても気づかない人や誤嚥物を咯出できない人で肺炎を繰り返す人

救急センター



救急センター長
赤坂 威史
TAKEFUMI
AKASAKA



理事長
米満 弘一郎
KOICHIRO
YONEMITSU

ナースカー
Nurse Carのご案内（平日(月～金)9:00～16:30）
クリニック、かかりつけ医の先生、介護施設等からの依頼に対応いたします(30分圏内)

【ご依頼】 ナースカーをご希望の旨お伝えください。

- 当院の救急車で救急ナースが同乗し、申し送りを受けます。
- スタッフの方の同乗は必要ありません。
- サイレンは鳴らしません。



連絡先 救急センターホットライン
TEL 096-345-8131

外来予約はこちらの番号にお電話ください

熊本機能病院 外来予約センター（直通）

TEL 096-345-8195

対応時間 平日 8:30～17:00 土曜 8:30～12:20



新任医師紹介



消化器外科 部長
内野良仁
RYOJIN UCHINO

4月より勤務することになりました内野良仁と申します。消化器外科が専門ですが、緩和医療や化学療法、地域包括ケア等に取り組みたいと思っています。何卒宜しくお願い致します。

【出身地】熊本県 【卒業年】昭和54年 【専門分野】消化器外科
【関心分野】消化器外科、緩和・化学療法、地域包括ケア
【取り組みたい事】地域医療 【趣味・特技】ゴルフ、旅行

<学会>
日本外科学会、日本消化器外科学会

<経歴>
京都大学医学部附属病院、熊本大学医学部附属病院、米国 NIH Visiting fellow、熊本労災病院、阿蘇中央病院、聖十字会西日本病院、出水市立病院、熊本再春荘病院、熊本市立植木病院

<専門医・認定医>
日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医、地域包括医療ケア認定医

Profile



耳鼻咽喉科
鮫島靖浩
YASUHIRO SAMEJIMA

4月より赴任しました鮫島靖浩です。熊本大学付属病院で嚥下障害や難聴の診療に関わってきました。熊本機能病院の嚥下障害に関する診断とリハビリテーションは大変素晴らしいものがあります。これまでの経験を生かして、さらに地域に貢献できれば幸いです。また、乳幼児から高齢者までの聴覚障害や音声障害に対しても貢献したいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

【出身地】長崎県 【卒業年】昭和56年 【専門分野】耳鼻咽喉科
【関心分野】嚥下障害、難聴、音声障害
【取り組みたい事】嚥下障害に対する外科的治療、難聴の診断と治療、補聴器外来
【趣味・特技】登山、アウトドア

<学会>
日本耳鼻咽喉科学会、日本嚥下医学会評議員、日本音声言語医学会評議員、日本口腔咽喉頭科学会評議員、日本アレルギー学会

<経歴>
熊本大学医学部附属病院、熊本市民病院、水保市立病院、熊本大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科講師

<専門医・認定医>
日本耳鼻咽喉科学会専門医・指導医・補聴器相談医、日本アレルギー学会専門医・指導医、日本気管食道科学会専門医

Profile



脳神経内科・リハビリテーション科 部長
本田省二
SYOJI HONDA

10か月ぶりに熊本機能病院に戻ってきました。前回の勤務時は、皆さまに大変お世話になりました。今後、少しずつ返返しが出来ればと思っています。

【出身地】熊本県 【卒業年】平成11年
【専門分野】脳卒中、リハビリテーション
【関心分野】脳卒中のリハビリテーション
【取り組みたい事】リハビリテーション医学 【趣味・特技】散歩

<学会>
日本内科学会、日本神経学会、日本脳卒中学会、日本リハビリテーション医学会、日本神経治療学会

<経歴>
熊本大学医学部附属病院、国立熊本医療センター、済生会熊本病院 脳卒中センター、熊本再春荘病院、国立病院機構 宮崎病院、熊本労災病院、阿蘇医療センター

<専門医・認定医>
日本内科学会認定内科医、日本神経学会神経内科専門医、日本脳卒中学会脳卒中専門医

Profile



整形外科 医長
水田和孝
KAZUTAKA MIZUTA

本年度より勤務となりました整形外科の水田和孝と申します。佐賀大学に所属しており、医師歴は8年目となります。熊本機能病院では、地域の患者さんのために頑張っていきたいと思っております。宜しくお願い致します。

【出身地】佐賀県 【卒業年】平成24年
【関心分野】人工関節、外傷、足の外科
【取り組みたい事】人工関節の手術 【趣味・特技】読書

<学会>
日本整形外科学会、日本足の外科学会

<経歴>
佐賀大学医学部附属病院、佐賀県医療センター 好生館、JCHO 佐賀中部病院、NHO 嬉野医療センター 柳川病院、NHO 東佐賀病院

Profile



形成外科
水谷望
NOZOMI MIZUTANI

本年度より形成外科医師として勤務いたします水谷望と申します。まだまだ未熟者ですが、形成外科医として成長できるよう頑張ります。どうぞ宜しくお願い致します。

【出身地】福岡県 【卒業年】平成26年 【専門分野】形成外科一般
【関心分野】創傷外科、小児形成外科 【取り組みたい事】形成外科診療・手術
【趣味・特技】スポーツ観戦、イラスト

<学会>
日本形成外科学会

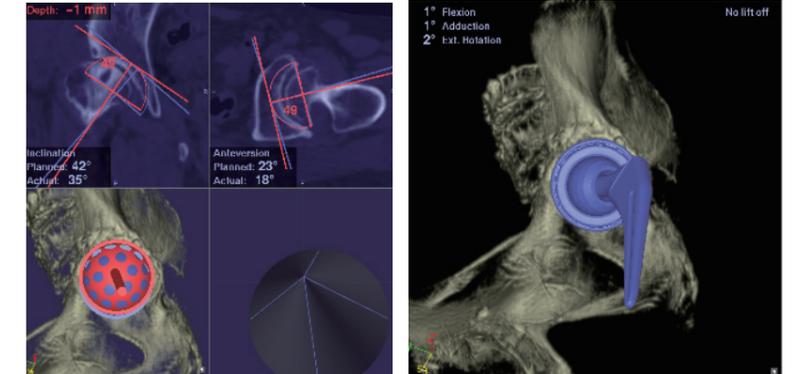
<経歴>
北九州総合病院、熊本大学医学部附属病院

Profile

人工関節置換術ナビゲーションシステム



人工関節センター長
高橋知幹 (整形外科)
TOMOKI TAKAHASHI



当院では年間約500例の人工関節置換術の手術を行っております。人工関節置換術の手術は、人工関節を、術前計画通り正確な位置に入れることが重要です。当院では、患者さんにとって安全で最適な手術を行うための環境を整えるために、ナビゲーションシステムを活用しています。

人工関節置換術ナビゲーションシステムとは、赤外線を使用して、関節の形状や位置関係を3D化し、術中に人工関節の正確な位置をナビゲーションします。当院では、ナビゲーションによる人工関節置換術を年間約400例行っております。



術前計画

CTなどの検査で得られた患者さんの骨格の情報をナビゲーションシステムに入力。それにより人工関節を設置する位置やサイズを決定します。

手術中

ナビゲーションシステム画面を確認しながら、術前計画通りに人工関節を設置することができます。

TOYOTA ウェルワークを導入します



入院患者さんを対象に、脳卒中などによる下肢麻痺のリハビリテーション支援を目的としたロボット「ウェルワーク」を5月より導入します。

患者さんに合わせた難易度の調整や、歩行状態のフィードバック機能など、運動学習理論に基づいた様々なリハビリテーション支援機能を備えています。

歩行状態を前方モニターで確認することができ、麻痺側に装着したロボット脚などにより、下肢の振り出しのアシスト量を調整しながら歩行練習が行えます。また、転倒防止機能が備わっていますので、重度の下肢麻痺を呈した方でも、転倒することなく連続した歩行練習が可能です。

総合リハビリテーションセンター
副センター長

徳永 誠 (脳神経内科・リハビリテーション科)

MAKOTO TOKUNAGA